

# OSCEの現状と展望

特定非営利活動法人薬学共用試験センター  
設立10周年記念講演会

2016年9月22日(木・祝) 慶應義塾大学薬学部

OSCE実施委員会 橋詰 勉

1. OSCE実施に至る経緯
2. 現在のOSCEと課題見直し
3. 今後のOSCE実施に向けて

# 薬学共用試験センターOSCE実施委員会

**委員長・副委員長** 橋詰 勉、入江 徹美、野田 幸裕

**委員** 明石 文吾、有田 悦子、石田 志朗、岡村 昇、  
折井 孝男、木内 祐二\*、木津 純子、佐藤 透、田村 豊、  
富岡 佳久、中嶋 幹郎、松下 良、松元 一明、矢野 育子、  
山田 純一、吉田 力久、吉富 博則\*、渡邊 真知子 (\*元副委員長)

**73大学・74学部の大学委員**

**旧委員(2006(H18)以降のOSCE内容・体制委員会委員を含む)**

明石 孝男、旭 満里子、岡崎 光洋、岡野 善郎、小澤 孝一郎\*、  
笠井 秀一、木平 健治、島貫 英二、曾根 清和、中川 輝昭、  
永田 修一、永田 泰造、平井 みどり、松山 賢治、望月 真弓、  
森 昌平、山田 安彦

**協力・支援**

文部科学省、厚生労働省

日本薬学会

日本薬剤師会、日本病院薬剤師会

各模擬患者研究会

平成16(2004) 2月 中央教育審議会答申

「薬学教育の改善・充実について」

実務実習の整備、共用試験の実施、第三者評価の実施

平成16(2004) 3月

薬学教育者ワークショップタスクフォース経験者によるアドバ  
ンストワークショップ「薬学教育での共用試験をどうする？」

平成16(2004) 9月

第三回薬学教育改革大学人会議アドバンスワークショップ  
「共用試験OSCEの実施に向けた教育者ワークショップ」

テーマ: 共用試験OSCEの実施項目の提案

⇒実施課題の提案

平成16(2004) 10月

日本薬学会薬学教育改革大学人会議OSCEトライアル委員会発足

**ミニトライアル実施**

第1回 2005.12.24 東京薬科大学

第2回 2006. 2.27 武庫川女子大学

平成18(2006) 薬学部6年制スタート

平成18(2006) 特定非営利活動法人 薬学共用試験センター設立

平成18(2006) 8月

第3回薬学教育フォーラム2006

「医療人養成教育における薬学共用試験OSCEの重要性」

⇒OSCE実施のための全国組織の確立

薬学共用試験センターOSCE実施委員会と

日本薬学会薬学教育改革大学人会議OSCE内容・体制委員会

(旧トライアル委員会)が共同で活動

各大学でトライアル実施

学会(薬学会など)での報告・討論

実施概要の説明会開催

評価者養成伝達講習会開催、模擬患者養成講習会

OSCE実施説明会(現在は、4月に開催)

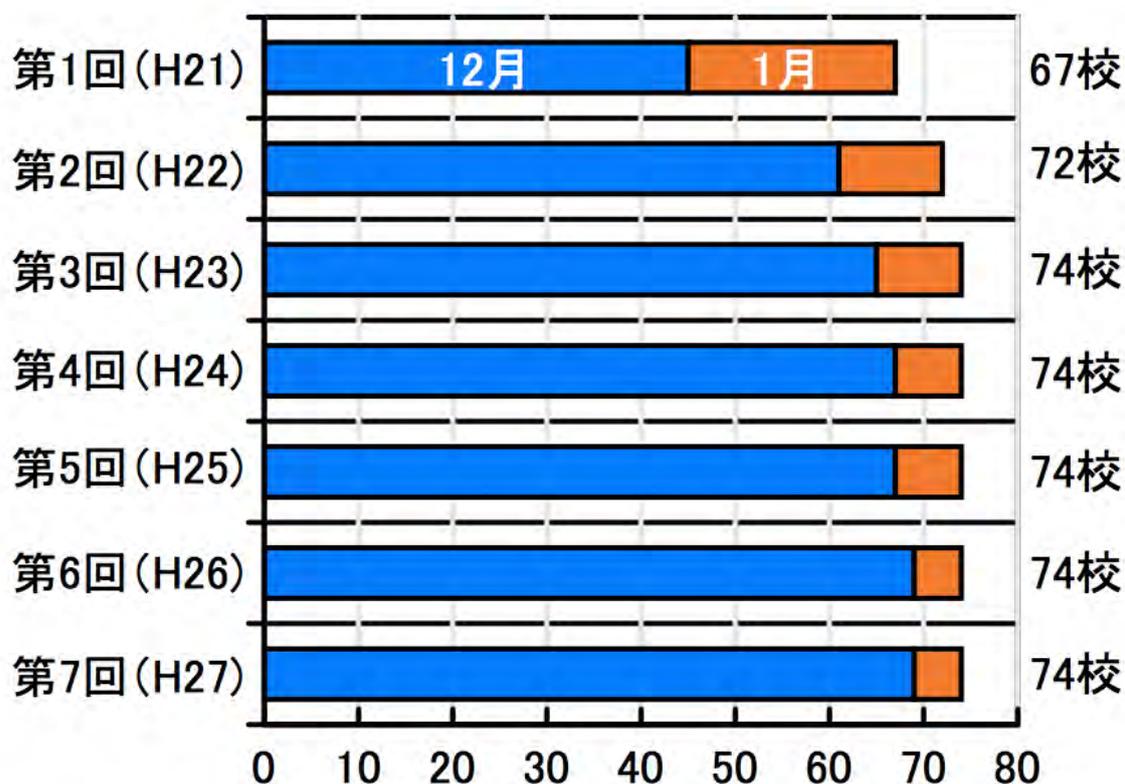
OSCEモニター説明会(現在は、8月末～9月初旬に開催)

平成21(2009) 第1回薬学共用試験



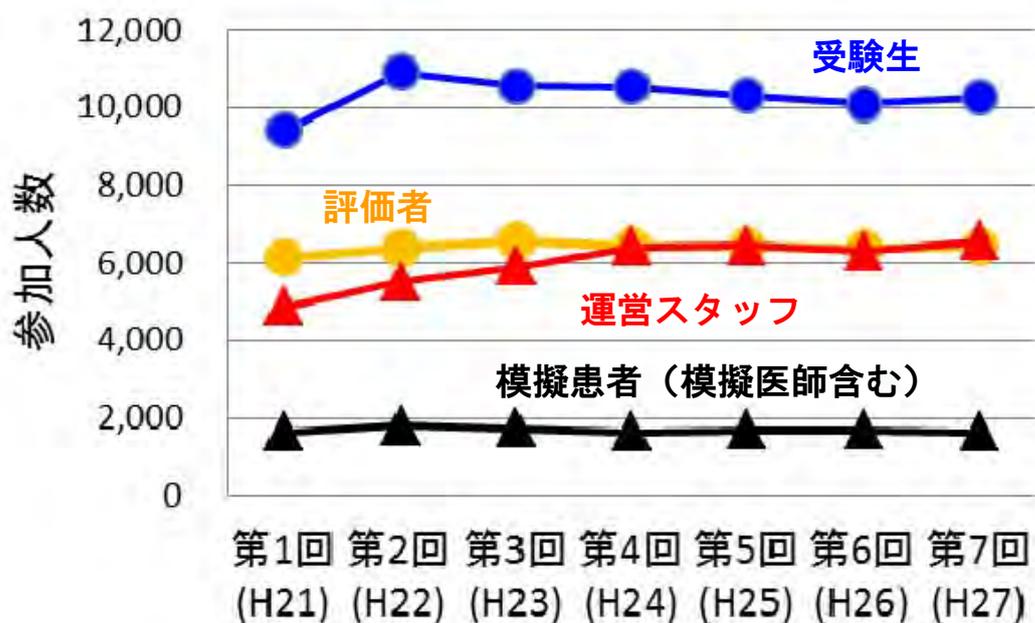
現在のOSCEと課題見直し作業

	標準課題 2007.4	現在の課題構成
領域1 患者・来局者対応	患者対応(薬局)	薬局での患者対応
		病棟での初回面談
		来局者対応
領域2 薬剤の調製 (1)(2)	計量調剤(散剤)	計量調剤(散剤)
	計量調剤(水剤)	計量調剤(水剤)
	計量調剤(軟膏剤)	計量調剤(軟膏剤)
		計数調剤
領域3 調剤監査(鑑査)	調剤鑑査	調剤薬監査
領域4 無菌操作の実践	手洗いと手袋の装着	手洗いと手袋の着脱
	注射剤混合	注射剤混合
領域5 情報の提供	薬剤交付(薬局)	薬局での薬剤交付
		病棟での服薬指導
		一般用医薬品の情報提供
		疑義照会
	8	14



## OSCE実施大学数

## 薬学共用試験OSCE参加者の内訳(年次推移)



⇒多くの人的資源のもとに実施されている

現在のOSCEと課題見直し作業

	標準課題 2007.4	現在の課題構成
領域1 患者・来局者対応	患者対応(薬局)	薬局での患者対応
		病棟での初回面談
		来局者対応
領域2 薬剤の調製 (1)(2)	計量調剤(散剤)	計量調剤(散剤)
	計量調剤(水剤)	計量調剤(水剤)
	計量調剤(軟膏剤)	計量調剤(軟膏剤)
		計数調剤
領域3 調剤監査	調剤鑑査	調剤薬監査
領域4 無菌操作の実践	手洗いと手袋の装着	手洗いと手袋の着脱
	注射剤混合	注射剤混合
領域5 情報の提供	薬剤交付(薬局)	薬局での薬剤交付
		病棟での服薬指導
		一般用医薬品の情報提供
		疑義照会
	8	14

## 薬学共用試験OSCEに関するワークショップ

平成26年9月1日、慶應義塾大学薬学部 芝共立キャンパス

参加者91名(大学教員75名、日本薬剤師会推薦8名、日本病院薬剤師会推薦8名)

- (1) 現課題は、**改訂コアカリによる実務実習を安全で有効に実施するのに十分ですか？**
- (2) 新規、追加すべき課題と修正すべき課題の内容の具体的提案

## 薬学共用試験OSCE課題見直しに関するワークショップ

平成27年10月4日、名城大学薬学部 八事キャンパス

参加者83名(大学教員74名、日本薬剤師会推薦5名、日本病院薬剤師会推薦4名)

- (1) **新規検討課題例(前回ワークショップと各大学からの提案課題を基に作成)に基づく実施の検討**
- (2) 今後のOSCE実施内容と現課題改訂案の作成

# OSCE課題見直しの作業（予定）

平成

16年度(2004年) ・第三回薬学教育改革大学人会議アドバンス  
ワークショップ「共用試験OSCE実施項目の提案」

21年度(2009年) ・1回目の薬学共用試験実施

25年度(2013年) ・薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂

26年度(2014年) ・薬学共用試験OSCEに関するワークショップ

27年度(2015年) ・全大学に課題案の提出依頼(7月)

・OSCE課題見直しに関するワークショップ(10月)

28年度(2016年) ・新規課題案(9課題)の提案

トライアル実施

検証と修正

29年度(2017年) ・新規課題の提示 →30年度からの実施

・現課題の修正

・新規課題案(追加)の提案→31年度以降の実施

評価者講習会

30年度(2018年) 改訂コアカリに基づく薬学共用試験

## OSCEの各領域に含まれる項目(案) 新規は赤字

領域	項目
1. 患者・来局者対応	※場所:薬局・病棟・在宅 ※対象:患者・来局者・家族 ○あいさつ(開始時、終了時) ○コミュニケーション(身だしなみ含む) ○情報収集(健康状態、既往・アレルギー歴、生活情報、心理、 <span style="color: red;">フィジカルアセスメント、後発品変更希望</span> ) ○薬学的管理(お薬手帳、服薬状況、効果・副作用(歴)、 <span style="color: red;">残薬、持参薬、検査値</span> ) ○救急対応
2. 薬剤の調製(1) 2. 薬剤の調製(2)	○身だしなみ ○薬袋・薬札の作成 ○調剤器具の取り扱い・片付け ○計数調剤(取り揃え) ○散剤の計量調剤(計算、秤量、混合、分包) ○軟膏剤の計量調剤(秤量、絞り出し、混合、充填) ○水剤の計量調剤(計算、服用量表示、秤量)
3. 調剤監査	○身だしなみ ○薬袋・薬札 ○調剤薬の監査(計数・散剤・水剤・ <span style="color: red;">注射剤</span> ) ○ <span style="color: red;">処方監査</span> ○ <span style="color: red;">持参薬確認</span>
4. 無菌操作の実践	○身だしなみ ○マスク・帽子の装着 ○ <span style="color: red;">ガウンの着脱</span> ○手洗い ○ <span style="color: red;">手指消毒</span> ○手袋の着脱 ○注射剤( <span style="color: red;">抗がん剤</span> を含む)混合(溶解・採取、注入、混合、片付け)
5. 情報の提供	※場所:薬局・病棟・在宅 ※対象:患者・来局者・家族・ <span style="color: red;">医師</span> ○あいさつ(開始時、終了時) ○コミュニケーション(身だしなみ含む) ○服薬指導(処方薬、OTC薬、 <span style="color: red;">医療機器、代替薬</span> ) ○医療従事者への情報提供(疑義照会・ <span style="color: red;">患者情報の報告</span> )

# 新規課題案の内容

- ・ 在宅での患者対応・情報収集  
薬学的管理（体調変化・服薬状況の確認）  
薬学的管理（フィジカルアセスメント）
- ・ 持参薬チェック
- ・ 手指の消毒と手袋・ガウンの着脱
- ・ 他職種への情報提供
- ・ 薬局での薬剤交付（医療機器）  
吸入器、インスリン自己注射製剤

1. 本課題は、薬学共用試験OSCE課題見直しに関するワークショップ(平成27年10月4日)資料として作成したものを、ワークショップの議論を基に修正したものです。
2. 本課題は、正式な課題とすることが決定したものではありません。

## OSCE新規課題案の検討と トライアル実施について

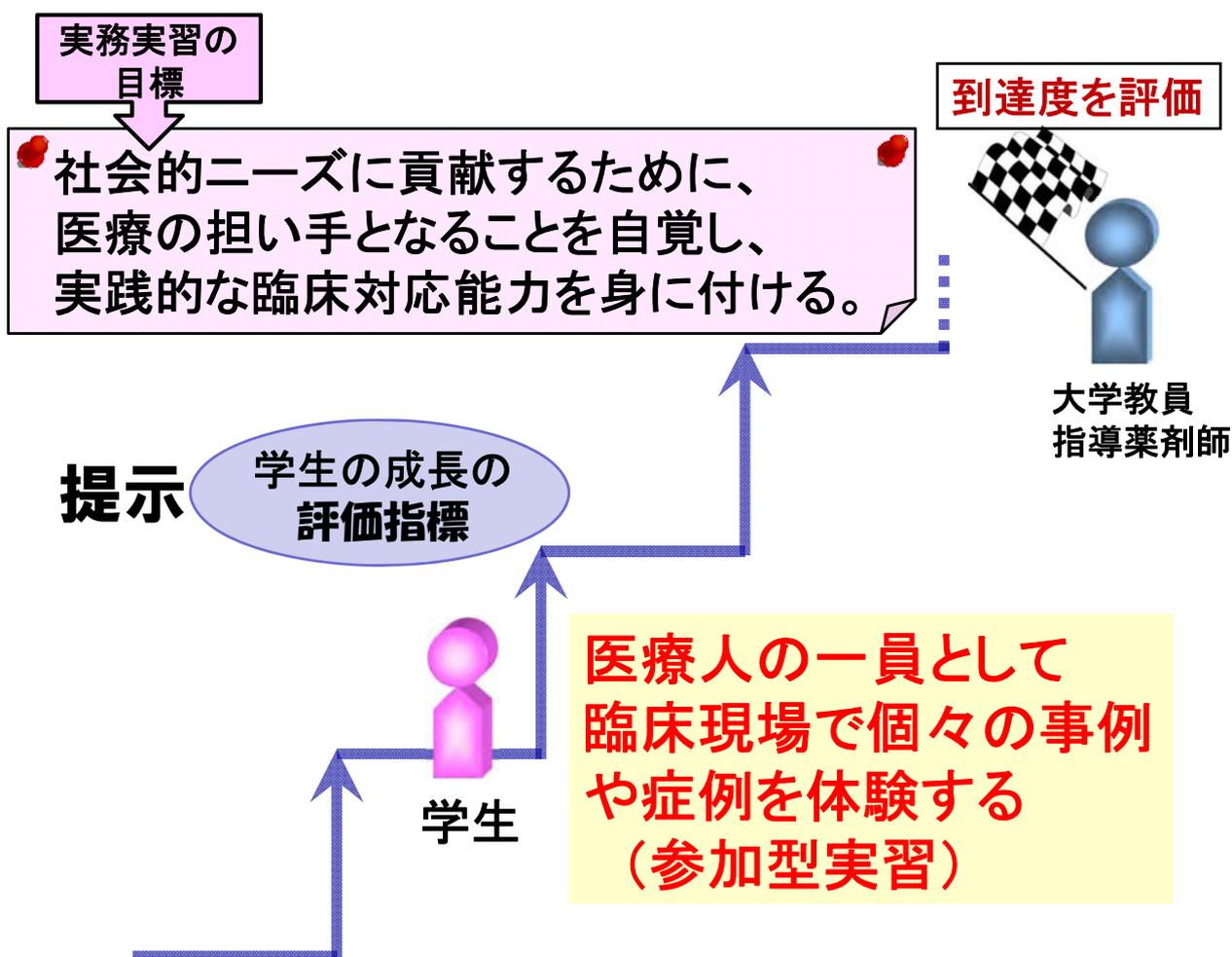
### 目的

新規課題案の、OSCE実施課題としての妥当性、実施可能性や、OSCEとしてよりふさわしい課題とするための修正点を検討する。

**参加型実習実施に向けた課題構築を目指す**

# 今後のOSCE実施に向けて

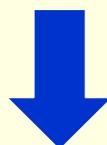
## 原点を意識することが必要？



# 薬学共用試験とは

- 実務実習では、免許を持たない学生が実際に調剤業務や服薬指導を行うこととなるので、学生が、基本的な能力（知識・技能・態度）を有していることを証明する必要あり

そのため、



大学が協力して共通問題を  
作成して実施する試験

## 薬学共用試験OSCE

学生にとって

薬学共用試験 (CBT、OSCE) の目標は  
「合格すること」?

⇒4年次までの学習を振り返る

⇒緊張した環境で合格し、  
自信を持って実務実習に臨むことができる

**教育の一部である**  
**6年間の途中である**

さらに

「学生が母校の教育に誇りを持てるOSCE」のためには…

# 薬学共用試験OSCE

1) 「学生が適切な薬学知識, 技能, 態度を有すること」を  
社会に示すために

⇒ 患者に対して安全に、患者が気分よく



2) 学生が

社会的ニーズに貢献するために、  
医療の担い手となることを自覚し、  
実践的な臨床対応能力を身に付ける

ための参加型実務実習を  
堂々と履修するために

⇒改訂コアカリに準じた実務実習をするための  
適切なOSCE課題を構築する

⇒適正なOSCE実施の運営を行う



大学教員

**学生に対して責任を果たすOSCEの実施**